



書 評

周術期管理に役立つ Point of Care 超音波
—入門から応用まで—

片山 正夫／山田 徹・編

POCUS で周術期内科医の能力を高めよう

とてもたいへんな任務を負うことになった。超音波検査に関しては、まったくの素人である私が、書評を書くように、編者の片山正夫先生に指名された。正直、超音波機器のスイッチの入れ方も知らない私である。にもかかわらず、本書をまともていただけるように先輩である片山先生の背中を押したのは確かに私である。なぜかという、麻酔科医が超音波を周術期に活用できたら、どんなに周術期医療が大きく前進するだろうか、容易に想像できたからである。序文にあるように麻酔科医は、周術期の内科医である。内科疾患の周術期管理を行う麻酔科医であれば、総合診療医のように超音波を幅広く活用できると麻酔科医の世界がさらに広がるはずである。超音波を活用し、中心静脈穿刺や末梢神経ブロックを行う麻酔科医はめずらしくない。しかし、まだ、周りには point of care ultrasound (POCUS: ポイントオブケア超音波) をさまざまな周術期臨床現場の課題解決に活用している麻酔科医は見当たらない。なので、本書の存在にいち早く気づき、本書を頼りに POCUS を開始できる麻酔科医は、とても幸運である。麻酔科医の中でも、特別な能力を有し、患者さんが手術をより安全に受けることに大きく貢献でき、仲間の麻酔科医はもちろん、外科医や看護師からも尊敬されるに違いない。

しかし、本書の野心は、それだけにとどまらない。やがて、すべての麻酔科医が POCUS の能力を標準装備する時代が来ることを信じ、あるいは

そのためにこそ各セクションを担当した臨床医たちの知識や経験、最新のエビデンスが惜しみなく記載されている。POCUS は、単にテクニックではなく、病態を理解したうえでさらに実践的かつ発展的となる。本書では、そのテクニックの背景となる解剖や生理、病態の重要なポイントが分かりやすく解説されている。編者や執筆者たちの POCUS の捉え方がよく現れていると感じた。100 を超える動画が実践する際に非常に効果的である。本書を先にマスターした指導者が、専攻医に動画を見せながら、これらの背景情報とともに解説すれば、教える側、教えられる側にも大きな教育的効果が期待できる。

POCUS は、まだまだ発展段階の領域であり、より効果的な活用方法の研究も必要である。POCUS から新たに発見できる病態もあるだろう。麻酔科専攻医から専門医も含め、まずは本書の存在に気づいたあなたから POCUS を始めたらいかがですか？ これは、六十の手習いにはなるが、私自身への呼びかけでもある。すべての麻酔科医が活用してほしい、活用できる一冊である。

(千葉大学大学院医学研究院麻酔科学名誉教授

磯野 史朗)

A5 判, 238 頁

2023 年 6 月, 定価 6,380 円
克誠堂出版